

化学物質等安全データシート (MSDS)

1 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称 アンツノー粒剤

会社名	アース・バイオケミカル株式会社
住所	〒101-0048 東京都千代田区神田司町 2-12-1
担当部門	研究開発部 (企画開発担当) 電話番号 088-665-5750 (徳島)、FAX 番号 088-665-5383
緊急連絡電話番号	品質管理室 088-665-5353

2 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性	火薬類	区分外
	可燃性/引火性ガス	分類対象外
	可燃性/引火性エアゾール	分類対象外
	支燃性/酸化性ガス類	分類対象外
	高压ガス	分類対象外
	引火性液体	分類対象外
	可燃性固体	分類できない
	自己反応性物質および混合物	分類できない
	自然発火性液体	分類対象外
	自然発火性固体	区分外
	自己発熱性物質および混合物	分類できない
	水反応可燃性物質および混合物	区分外
	酸化性液体	分類対象外
	酸化性固体	分類できない
	有機過酸化物	区分外
	金属腐食性物質	分類できない
	健康有害性	急性毒性 (経口)
急性毒性 (経皮)		区分外
急性毒性 (吸入: ガス)		分類対象外
急性毒性 (吸入: 蒸気)		分類できない
急性毒性 (吸入: 粉塵)		分類できない
急性毒性 (吸入: ミスト)		分類対象外
皮膚腐食性/刺激性		区分 3 ¹
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性		区分 2 B ¹
呼吸器感作性		分類できない
皮膚感作性		分類できない
生殖細胞変異原性		分類できない
発がん性		分類できない
生殖毒性		区分 2 ²
特定標的臓器/全身毒性 (単回暴露)		分類できない
特定標的臓器/全身毒性 (反復暴露)		分類できない
吸引性呼吸器有害性		分類できない
環境有害性		水生環境有害性 (急性)
	水生環境有害性 (慢性)	分類できない

1. 皮膚腐食性/刺激性及び眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性については、各成分の情報から分類した結果、本品の皮膚腐食性/刺激性を区分3、眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性区分2Bとした。
2. 生殖毒性については、各成分の情報から分類した結果、本品の生殖毒性を区分2とした。
3. 水生生物環境有害性（急性）については、単純加算法を用いた結果、本品の水生生物環境有害性（急性）を区分3とした。

ラベル要素

絵表示またはシンボル：



注 意 喚 起 語：警告

危 険 有 害 性 情 報：軽度の皮膚刺激

眼刺激

生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い

水生生物に有害

注 意 書 き：【安全対策】

- ・ すべての安全注意を読み、理解するまで取り扱わないこと。
- ・ 定められた使用方法を厳守すること。
- ・ アレルギー症状やかぶれなどを起こしやすい特異体質の人は、薬剤の処理作業には従事しないこと。
- ・ 使用時には個人用保護具（保護手袋、保護眼鏡、保護面、保護衣等）を着用すること。
- ・ 皮膚又は衣服に付着した場合は、石けん等でよく洗うこと。
- ・ 取扱い後はよく手を洗うこと。
- ・ 環境への放出は避けること。

【応急処置】

- ・ 吸入した場合は、直ちに空気の新鮮な場所に移動させ、安静に保つこと。身体に異常を感じる場合は、医師の診療を受けること。
- ・ 皮膚に付着した場合は、多量の水と石けんで洗うこと。皮膚刺激が生じた場合は医師の診療を受けること。
- ・ 眼に入った場合は、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合は、速やかに医師の診療を受けること。
- ・ 飲み込んだ場合は、水でよく口の中を洗浄すること。コップ1～2杯の水又は牛乳を与え、胃内で薄めてもよい。無理に吐かせようとせず、直ちに医師の診察を受けること。
- ・ 曝露又は曝露の懸念がある場合は、医師の診療を受けること。

【保管】

- ・ 直射日光を避け、乾燥した涼しい場所に保管すること。
- ・ 食品、食器、飼料等と区別し、小児の手の届かない場所に施錠して保管すること。

【廃棄】

- ・ 使用済みの空容器は地方公共団体等の条例に従い処分すること。

最重要危険有害性：情報なし
特定の危険有害性：情報なし

3 組成、成分情報

混合物（顆粒剤）

化学特性

成分	有効成分	ビストリフルロン	
	有効成分	ほう酸	1.0%
	滑沢剤	軽質無水ケイ酸	2.0%
	誘引・喫食促進剤（賦形剤）	天然物	

危険有害成分：情報なし

4 応急措置

吸入した場合：直ちに空気の新鮮な場所に移動させ、安静に保つ。身体に異常を感じる場合は、医師の診療を受ける。

皮膚に付着した場合：多量の水と石けんで洗う。皮膚刺激が生じた場合は医師の診療を受ける。

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗う。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、洗浄を続ける。眼の刺激が続く場合は、速やかに医師の診療を受ける。

飲み込んだ場合：水でよく口の中を洗浄する。コップ1～2杯の水又は牛乳を与え、胃内で薄めてもよい。無理に吐かせようとせず、直ちに医師の診察を受ける。

医師に対する特別な注意：本品はベンゾイルフェニルウレア系殺虫剤及びほう酸を含有する殺虫剤である。

5 火災時の措置

消火剤：泡、粉末、二酸化炭素

特定の消火方法：消火作業は可能な限り風上から行う。移動可能なものは、速やかに安全な場所に移す。火災発生場所の周辺は関係者以外の立入りを禁止する。

消火を行う者の保護：消火作業は風上から行い、有毒なガスの吸入は避ける。周囲の火災状況に応じて適切な保護具を着用する。

6 漏出時の措置

人体に対する注意事項

保護具（保護手袋、保護眼鏡、保護面、保護衣等）を着用して行う。風下の人を退避させ、風上から作業する。付近の着火源となるものを速やかに取り除く。着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。

環境に対する注意事項

土壌汚染を防ぎ、下水、排水等へ流入しないようにする。

除去方法

密閉できる容器（廃棄物入れ）に回収した後、汚染した箇所を洗剤と水でよく洗浄し、使用した洗浄水は密閉できる容器（廃棄物入れ）に回収する。（処分は「13 廃棄上の注意」に従う。）

7 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策
1. 適切な保護具（「6 漏出時の措置」と同一）を着用する。
 2. 使用する場所は、できるだけ人目につかないところを選び、小児やペットが触れたり、誤食したりしないよう十分に注意する。
 3. 屋外で使用する場合は、雨の日を避け、直射日光の当たらない場所に使用する。
 4. 井戸、地下水などを汚染するおそれのある場所や蜜蜂、蚕（桑）、水棲生物などに被害を及ぼすおそれのある場所では使用しない。

- 注意事項
1. 定められた使用方法を厳守する。
 2. 食品、食器、おもちゃ、飼料、寝具、衣料等に薬剤がかからないようにする。

安全取扱い注意事項 情報なし

保管

技術的対策 : 食品、食器、飼料等と区別し、小児の手の届かない場所に施錠して保管する。

混触禁止物質 : 情報なし

保管条件 : 直射日光を避け、乾燥した涼しい場所に保管する。

容器包装材料 : ガラス瓶

8 暴露防止及び保護措置

設備対策 取扱い場所の近くに手洗設備を設ける。

保護具 保護手袋、保護眼鏡、保護面、保護衣等

9 物理的及び化学的性質

物理的状態 : 固体（顆粒）

色 : 淡黄色

pH : 情報なし

臭い : 情報なし

物理的状態が変化する特定の温度/温度範囲 : 情報なし

引火点 : 引火性なし

爆発特性 : 爆発性なし

密度 : 情報なし

溶解性 : 情報なし

10 安定性及び反応性

安定性 : 情報なし

反応性 : 情報なし

危険有害な分解生成物 : 情報なし

11 有害性情報

急性毒性 : 情報なし（別添資料参照）

局所効果 : 情報なし（別添資料参照）

12 環境影響情報

情報なし（別添資料参照）

13 廃棄上の注意

残余廃棄物：専門の廃棄物処理業者に処理を委託する。
汚染容器・包装：専門の廃棄物処理業者に処理を委託する。

14 輸送上の注意

運搬に際しては、容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。該当法規に従い、輸送を行う。車両、船舶には保護手袋、保護眼鏡、保護面等の保護具を備える他、異常時の処理に必要な消火器、工具を備えておく。
国際規制：情報なし

15 適用法令

労働安全衛生法：施行令第 18 条（名称等を表示すべき危険物及び有害物）
第 312 号 シリカ
P R T R 法 施行令第 1 条 第 1 種指定化学物質
第 405 号 ほう素化合物

16 その他の情報

毒物及び劇物取締法 非該当
環境ホルモン 疑われる化学物質リスト中には含まれず。

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、物理化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。また、注意事項は通常の実施を前提としたものです。

別添

ビストリフルロンの有害性情報と環境影響情報

有害性情報

急性毒性

ラット経口 LD₅₀ >5,000mg/kg

ラット経皮 LD₅₀ >2,000mg/kg

変異原性

Ames 試験 : 陰性

リンパ球染色体異常試験 : 陰性

小核試験 : 陰性

環境影響情報

生態毒性 : コイ LC₅₀ (48 時間) >0.5mg/L

オオミジンコ LC₅₀ (48 時間) <0.0526mg/L

別添

ほう酸の有害性情報と環境影響情報

有害性情報

急性毒性

ラット経口 LD₅₀ 3,500~4,100mg/kg
ラット経皮 LD₅₀ >2,000mg/kg
ラット吸入 LD₅₀ >2.0mg/L

局所効果

眼に対する重篤な損傷/眼刺激性

50年間の職業暴露では、ヒトの眼に対する有害な影響はみられない。

ほう酸は、目薬の成分である。

発がん性

ラットやマウスでは発がん性の証拠はない。

生殖毒性

ほう酸のラット、マウス及びイヌを用いた高用量での動物実験では、生殖能力と精巣への影響が示された。化学的に関連するほう酸のラット、マウス及びウサギを用いた高用量の試験では、胎児の重量減少や軽い骨格異常を含む胎児への影響がみられた。最も低いNOAELは、ラットの発達毒性の9.6mg/kgである。

環境影響情報

生態毒性： <i>Catostomas latipinnis</i>	EC ₅₀ (28 日間)	125mg B/L
オオミジンコ	EC ₅₀ (48 時間)	133mg B/L
淡水産単細胞緑藻類	EC ₅₀ (74.5 時間)	40mg B/L